

## 第4回子どもの遊び場確保に関する検討会 議事要旨

日 時 平成24年10月17日(水) 午後7時00分～午後8時30分  
場 所 区役所401会議室

### 議事日程

- 1 開会
- 2 検討事項
  - ・ 試行運用について
  - ・ 理想の遊び場について
- 3 その他
- 4 閉会

### 出席委員(6名)

上智大学文学部保健体育研究室教授 (研究室長)	師岡 文男
公募区民	大野 智洋
九段小学校PTA会長、千代田区立 小学校PTAこども110番連絡会会長	久保寺 健郎
麴町地区の町会関係者	瀬谷 達郎
千代田区青少年委員会会長	谷 真理子
麴町小学校副校長	渡邊 浩

### 出席区理事者(4名)

子ども・教育部長	高山 三郎
子ども総務課長	高橋 誠一郎
文化スポーツ課長	恩田 浩行
道路公園課係長	山口 和弥(代理)

### 出席事務局(3名)

子ども総務課係長	小宮 三雄
子ども総務課主任主事	橋場 広明
子ども総務課主事	岡本 翼

### 欠席委員(4名)

外神田五丁目栄町会	作道 泰明
-----------	-------

スポーツ推進委員	元安 晴香
千代田小学校PTA副会長	足立 陽子
公募区民	飯田 加世子

欠席区理事者（3名）

企画調整課長	芝崎 晴彦
都市基盤整備担当部長	小山 淳
道路公園課長	笛木 哲也

欠席事務局（0名）

## 議事日程

### 1 開会

⇒事務局橋場より開会の挨拶があった。

### 2 検討事項

⇒事務局から試行運用について資料に基づき説明があった。

- ・ 試行運用日時（確定）について。
- ・ スポーツ体験イベント、通常の試行運用について。
- ・ 試行運用アンケート調査について。
- ・ 試行運用チラシ、周知状況等について。

⇒事務局からの説明後、各委員からの意見表明、質疑応答等があった。

## ※各委員からの意見表明、質疑応答等

### （1）試行運用について

○和泉公園でのスポーツ体験イベント時は公園のスペースを全部利用するのか。あるいは少しスペースを余らせて普通に遊びたい子が遊べるようにするのか。

⇒スポーツ体験イベントのスペースとして公園の3分の2程度を利用する。その中にはスポーツ体験と、ボール遊びができるスペースをそれぞれ用意する。残りの3分の1は一般利用のかたのためのスペースとする。

○チラシについて、「誰でも楽しめる」といったキーワードがあるとよい。運動が得意な子でも、そうでない子でも、誰でも簡単に楽しめるといったことが伝わるとよい。

○チラシのプレーリーダーに関する表記について、遊びを取り仕切る人というのは表現が固いため、「遊びの案内人」といったみんなが安全に楽しめるよう一緒にあそんでくれるといったニュアンスのほうがよい。

- 中高生が来た場合の対応はどうか。
- ⇒本事業は小学生以下を対象としたもののため、安全を考慮して中高生同士での参加に関してはご遠慮頂く。弟や妹等、対象内の小さな子どもと遊ぶ場合は問題ないものとする。
- キャッチボール等ボール遊びをする場合、そのエリアをちゃんと仕切って、ボールがそれでも大丈夫のように安全管理をしておかないといけない。
- 子どもがどれくらい来るかによっては、臨機応変に交代制にしたり、制限をしたり、運用の仕方が重要になってくる。
- 基本的にはプレーリーダーの裁量に任せて、本当に必要な時だけ区職員が対応をするようにすべきである。
- アンケートについて、プレーリーダーに関しては「良い・悪い」ではなく、一緒に遊んだかどうかや、楽しかったかどうかを聞いた方がよい。その他の質問についても子どもが回答しやすいような配慮をしたほうがよい。
- アンケートは子ども用だけではなく、保護者用も用意したほうがよい。
- アンケートの裏面を利用して、子どもに理想の遊び場や、どういった遊びをしたいか、絵に描いてもらうのはどうか。

## **(2) 理想の遊び場について**

- 利用者のすみ分けが非常に重要である。新宿区の南元町公園は非常によい遊び場ですみ分けもできている。
- なるべく広い場所で禁止されずにボール遊びが思いっきりできるスペースがあれば理想的である。
- バスケットゴールが1つあるだけでも、楽しい公園になる。
- 現在は安全面についてばかり配慮された結果、特徴のある楽しい遊具が無くなってしまっている。
- 昔は子どもが怪我しても、それは子どもの責任、親の責任というのが当たり前の話だった。子ども達を自由に遊んでもらうには親の意識も変わっていく必要がある。
- 現在は絶対的にスペースが少ない。児童、幼児、小学生、中高生といったように区分けをして、それぞれのスペースを確保してあげるといった考え方が大事である。
- 1面コンクリートの壁があれば1人でも2人でも、そこに遊びが派生する。
- 子ども達がふらっと遊びにいけるのは本当に近いところである。特に1年生とか低学年はそうでないと気軽には行けない。
- 学区域の中に1つ、子どもたちのコミュニティのような、そこに行けば遊べるというのがあるとよい。
- 秘密基地のように、子どもが何か自分で工夫して遊べる要素があるとよい。
- 可能であれば未利用地を区が買い上げたり、借り上げたりしてフリースペースとし

て活用できるようにするとよい。

○区中の大学や高校のグラウンド等も可能であれば有効活用していくべきである。

○千代田区らしいあり方として道路を活用できるとよい。

○子どもは次世代の宝だという意識を住民みんなが持ってくれるよう取り組んでいくべきである。

○プレーリーダーが鍵で、緩やかな管理をしながら、安全にみんなが遊べるように、みんながうまく平等に公平に楽しめるようにすることで、また来ようという気持ちになってくれるようになるとうい。

○ソフト面で考えるとプレーリーダーの育成も含めて考えていく必要がある。

○そこにいけばプレーリーダーが子どもを遊ばせてくれるような、親が子どもを積極的につれていくようになる仕組みが大事である。

### 3 今後のスケジュールについて

第5回	平成 24 年 11 月 21 日(水)	試行運用の評価、運用方法の再検討を行う。 また、検討会報告書案の作成を行う。
第6回	平成 24 年 12 月 12 日(水)	条例案の骨子作成、検討会報告書の承認を行う。

### 4 閉会